

令和3年度 はばたき学習（総合的な学習の時間）実践・研究計画

| | | | | | |
|-----|--------|-------|-------|-------|------|
| 部 員 | ○菅野 宣衛 | 福田 佳子 | 渡部 和朝 | 伊藤 敏幸 | 菅原 恵 |
|-----|--------|-------|-------|-------|------|

研究テーマ

自ら見いだした課題を、よりよい解決方法を用いて探究し、対象の本質に迫る子どもを育む学び

1 研究テーマについて

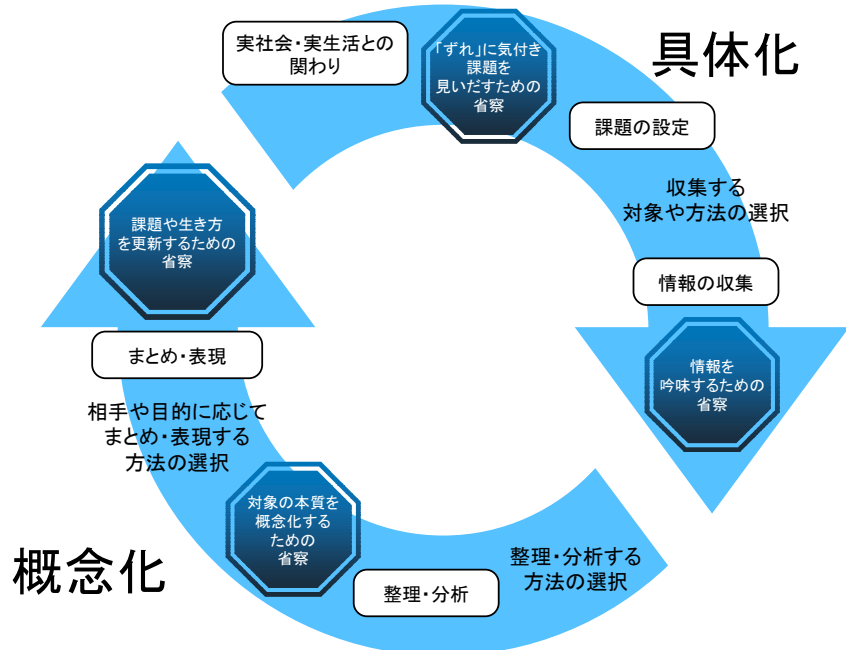
はばたき学習部では、研究主題の「自律した学習者」を、「実生活や実社会の中から課題を見だし、よりよい解決に向けて主体的・協働的に学習に取り組む子ども」と捉えた。そして、研究副題「学びをつなぎ資質・能力を高める」を受け、はばたき学習における「学びをつなぎ、資質・能力を高めていく子どもの姿」を次のように捉えた。

- ① 「人・もの・こと」と関わりながら、予想や理想などと現実との「ずれ」に気づき、自ら課題を見いだしていく姿
- ② 探究的な学習の過程において、よりよい解決方法を考えたり、選択したりしながら主体的・協働的に課題の解決を目指していく姿
- ③ 対象や解決方法について学んだことを自分の言葉で意味付け、次なる学びに活かす姿

このような子どもの姿を目指し設定したのが、はばたき学習部の研究テーマ「自ら見いだした課題を、よりよい解決方法を用いて探究し、対象の本質に迫る子どもを育む学び」である。前段の「自ら見いだした課題を」とは、上記①の子どもの姿を、後段の「よりよい解決方法を用いて探究し、対象の本質に迫る」の部分は、②③の姿を想定したものである。

コロナ禍にある昨年度の実践では様々な制約がある中で、課題解決のために主体的・協働的に探求する子どもの姿を求め取り組んだ。自分の学びの成果を振り返り省察する場面では、過去と現在の自分を比較したり自らの生き方の方向性を見いだしたりする子どもの姿が見られた。しかし、相手や対象、目的に応じた方法を柔軟に選択する資質・能力や、獲得した「見方・考え方」を自覚的・意識的に活用しようとする力の育成においては課題も残った。こうした成果と課題を踏まえ、今年度も本研究テーマに継続して取り組んでいく。

はばたき学習では、右図のように、子ども自ら課題を設定し、子ども自身が課題解決の目的や意義を明確に捉えていることが欠かせない。そのためには、これまで抱いていた学習対象となる「人・もの・こと」に対する考えや理想と、実社会や実生活と直接関わり合う中で現実との「ずれ」を自覚できるよう工夫する必要がある。そして、対象との出会いから子どもが課題を見だし、



図：はばたき学習における自律した学習者の学習過程

解決方法や手順を考えていく過程で、自ら選択し、判断していく場面を保障することが重要である。

探究的な学習の過程においては、自らの知識や技能、様々な学習で身に付けてきた「見方・考え方」等を総合的に働かせながら、情報を収集・吟味したり、整理・分析したりする姿が望まれる。その際に大切になってくるのは、他者と協働して課題を解決しようとする態度である。多様な他者と双方向の交流を行い、フィードバックを得ることで、多様な情報を活用したり、異なる視点から考えたりする力を育んでいく。

一人一人が、多くの「人・もの・こと」と実際に関わりをもつことを困難である状況下であるからこそ、適切な課題解決に取り組む上では協働的な省察を繰り返し位置付け、探求的な学習の過程を質的に高めていくことを心がけなくてはならない。これらのプロセスを通して、個の「見方・考え方」が生きて働くものになり、予測不可能な未知の社会に真に自律的に対応できる力が育成されるものと考えている。探究を通して、自分にとっての答えとしての概念をつくり直したり、自らの考えや生き方を見つめ直したりする子どもの姿を目指して、実践・研究を進めていく。

2 研究の重点 <○は具体的な取り組みの例>

(1) 探究的な学習の過程で用いる「見方・考え方」を選択し、自覚的に用いる力を高める学習活動の設定

○探究的な学習の過程で目的や自分に合った「見方・考え方」を選択し、用いていく活動を設定する。

- ・「課題の設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」といった一連の探究的な学習過程で、目的や自分に合った「見方・考え方」を選択し、用いていく活動を位置付けて単元を構成する。
- ・課題の見つけ方、目的に応じた情報の集め方や調べ方、整理・分析の仕方、まとめ方や表現の仕方、報告や発表・討論の仕方などを考える場面で適切な選択肢を示したり、友だちや教師と共に使ってみたりする活動を位置付ける。
- ・各教科等の学習経験を想起しながら、多様な「見方・考え方」を共に実際に使ってみる中で、課題や自分に合った方法を子ども一人一人が主体的に見いだすことができる場を設定する。

(2) 探究的な学習過程の質を高める効果的な省察の場を位置付けた単元構成の工夫

○探究的な学習過程の質を高める効果的な省察を位置付ける。

探究的な学習過程の質を高めるために以下の四つの場面に省察を位置づける。

- ・予想や理想と現実との「ずれ」に気付き課題を見いだすための省察
- ・多様な方法で収集した中から必要な情報を吟味するための省察
- ・整理・分析しながら対象の本質を概念化するための省察
- ・学びの成果を踏まえて課題や生き方を更新するための省察

3 研究・研修計画

| 時 期 | 主な研究・研修行事 | 研究・研修内容 |
|------|--|-------------------------------------|
| 1 学期 | ・はばたき学習部会 | ・実践・研究計画，年間指導計画作成 |
| 2 学期 | ・オープン研修会（11/29） 提案授業（渡部：4 B） ・研究リーフレット執筆 | ・実践・研究についての情報交換 ・授業を通しての重点事項の検証 |
| 3 学期 | ・はばたき学習部会 ・部内研究会 | ・授業を通しての研究の方向性の確認 ・実践記録・研究計画案の作成 |

通年：年間指導計画及び資質・能力表の加除・修正